

光市医師会報

昭和58年8月発行

No. 131



木製帆船模型

近藤龍一先生

光市医師会

医師会月間行事

◎定例理事会

7月12日(火) 7・30PM

医師会館

○報告並びに協議事項

1. 労務担当理事協議会報告

イ. 育児休業制度の説明

内容の検討の後、私的医療機関に於ける採択の可否について

ロ. 病院、診療所における労務管理上の問題点

a. チェックポイント

労働時間(男女差)、宿日直業務、休日(男女差)、年次有給休暇、割増賃金、就業規則、健康診断書について

b. 雇用契約の必要性和内容

c. パートタイマーの労働条件と就業規則に関して

d. 年次有給休暇の解説と諸問題

e. 協議会における質議応答その他

2. 老人保健法に関して光市との契約について

契約書の型式

契約金額の交渉経過報告

実施の方法及び時期期間

一般検診の期間の延長を要望したい

子宮癌検診も併記する。

眼底検査の要否と費用の問題

省略項目としてコレステロールと共に検討したい。

決定すれば例会にて説明の予定

3. 健康教育、健康相談に関して

市の健康教室の年間計画予定に関して医師会として協力しよう。

講師決定は福本理事を通して行うこととする。

4. 県医師会と光市医師会との合同行事は今年度は日時がとれないのでなし。

5. 玖珂シルバー病院の後処理問題。県の方針としては、買手があれば認可の方針

6. 健保組合との協議会 8月の予定 質疑を集めること

会長、副会長、担当理事は出席とする

7. 光駅落成式に会長出席

8. 小島先生お病気の為、日曜当直医よりはらずすことにする。

9. 4～6月の半期の会計報告

10. 事務職員夏季賞与支給の件

11. 山口県対癌協会会費を光市医師会より支出、例年通り

12. 三師会、納涼懇親会を兼ねて7月16日に準備 月例会は止め

13. 月例会の持ち方の工夫に関して

◎光市三師会総会並びに納涼懇親会

7月16日(土) 6・30PM

光総合結婚式場

特別の企画として、三師会に共通のテーマとして漢方に関する講演会を開催致しま

した。

歯科医師会、薬剤師会共に多数の参加を得ることが出来まして、今年度の主催者として医師会 面目をほどこした次第です。

演題 「漢方の基礎と臨床」

講師 近畿大学東洋医学研究所講師

中島 一先生

漢方の基本的考え方や基礎理論を判り易く講演をいただきました。

そのあと、デラックスな御馳走を囲んで懇親会に移り、それぞれの会よりカラオケがはじまり、大変賑やかに楽しい三師会となりました。

◎会員移動

光市立病院の整形外科にいらした齊鹿稔先生が、6月30日付で退会され大学病院に戻られ、後任として、豊海 隆先生が着任されました。

豊海 隆先生は、昭和28年生れ、本籍は豊浦郡豊日町 現住所は虹ヶ浜2丁目15の14です。55年に山卒卒業後整形外科に入局、麻酔科の教室にもいつておられ、周東総合病院にお勤めされた職歴もあります。どうか宣しく願います。

ル・ミラージュ

近藤 龍一

昨年、義弟が木製帆船のセットをくれましたので、何の気なしに作りはじめたところ、すっかり面白くなり熱中しています。



写真の船は、16世紀末のフランス戦列艦です。二層甲板で、74門砲搭載、約2000トンの堂々たる大型艦ですが、戦歴が記録に全くなく、幻の砲艦と云われています。今年の1月から製作にかかり、丸7カ月かかりました。

最近、日本でも帆船ブームが起こり、日本丸や海王丸は大変な人気ですし、海洋小説もよく読まれているようです。木製帆船も作る人が多くなり、「ザ・ロープの会」という全国組織もある程です。現在は、殆んどが輸入キットですが、少々高価なのが欠点です。

毬米では、帆船模型作りには古い歴史があり、「Kings Hobby」と云われています。天下に趣味は数多いのに、何故帆船模型だけが「王者の趣味」なのか不思議に

思い、調べてみますと、もともとこれは趣味ではなく、非常に重要な仕事であったのです。1492年、コロンブスの新大陸発見後、各国はいっせいに船をつくり、大航海時代に突入しました。海を制し、新しい島を植民地化することがどれだけ富をもたらすものか、知ったからです。それには、荒海をもものもしないすぐれた性能と、強力な武器を装備した船が必要です。王侯は貴族を集め、造船会議を催しました。貴族達は造船プランを携えて、会議に参加しましたが、その際図面だけではわかりにくいので、精密な模型を添えました。国王から、造船プランを採用されれば、こんな名誉なことはありません。貴族は腕のいい職人を雇って、工夫をこらし、精密で豪華な模型づくりに励みました。

16～17世紀の貴族の邸宅には、必らず帆船模型が飾られることになり、又それが、国王へつながる名門のシンボルともなったのでした。こうして帆船模型作りは、「王者の趣味」と呼ばれるようになったわけです。

日本では、鎖国が解かれた時、すでに鉄の蒸気船の時代に入っていたので、本格的な帆船時代を経験することが出来ませんでした。信長、秀吉の時代には、大航海時代の影響をうけて、日本にも本格的な航洋帆船があり、活発な遠洋航海をしておりましたが、徳川幕府の鎖国令で全て失われてしまいました。幕府は、海上から江戸湾を襲

われることを極度に恐れ、大船の建造を厳しく制限しました。

大きさは千石以下、帆柱は1本だけと決められた為、かろうじて沿岸をはいずりまわるだけの航海しか出来ませんでした。もし鎖国令がなければ、日本人は元来優秀な素質をもっていたから、きっと立派な帆船を作り、太平洋に雄飛していただろうにと想像して、くやしがっているこの頃です。

あとがき

うだるような暑さが続いて、いささかげんりの毎が続きます。フランスのお医者のように（本当かどうか知りませんが）2ヶ月もバカンスで、優雅な避暑がしてみたいと考えるようになってしまったのは、年のせいでしょうか。仕事に対する緊張を失いつつあるのでしょうか。（伊 藤）



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社